

# メディア利用に関する大山町の子どもたちの実態を調査しました

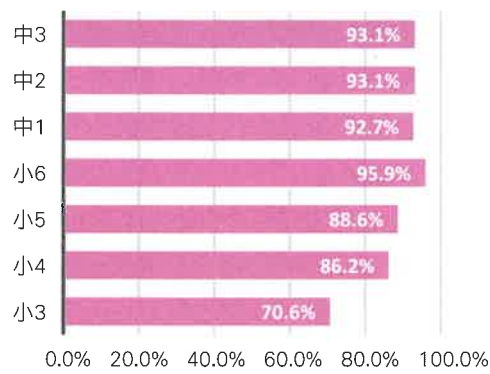
「メディアから子どもを守る実践会議」（主催 大山町教育委員会）は、近年のメディアをめぐる問題の深刻化を踏まえ、子どもたちがメディアを安心・安全に利用するための推進体制の整備や子どもたちに関わる大人たちの意識啓発、メディア対応能力の育成、子どもたちを取り巻くメディア環境の改善を図ることを目的として平成28年度から設立された組織です。

平成29年度は、町内の小中学生や保護者にアンケートを行い、その集計や分析を行ってきました。

対象は、小学校3年生から中学校3年生までの児童・生徒・保護者（約1700名）と就学前保護者（約300名）の合計約2000名です。紙面の都合もあり、すべてのアンケート項目について、紹介することはできませんが、特に顕著な項目について紹介します。



（グラフ1）メディア機器を使って、インターネットを利用している児童・生徒の割合



（グラフ1）から分かるように、学年によって差はありますが、全ての学年で多くの子どもたちがインターネットを利用している状況が伺えます。他の質問項目からは、就学前の子どもも約40%が利用していることがわかりました。インターネットを利用することが当たり前になる中、インターネットの付き合い方について考えることが大切となっています。

## インターネットの利用時間が大きな課題

平日3時間以上、利用している割合は（表1）のようになっています。夕方帰宅してから、就寝までの子ども

もたちが家庭で過ごす時間は、5〜6時間程度です。その大切な時間の半分以上をインターネットに使うことは、生活習慣の乱れ、視力低下などの健康被害、家族の団らんや学習時間の減少など、私たちの生活に様々な悪影響を及ぼします。

（表1）平日3時間以上、インターネットを利用している割合

小学校3年生	5.0%
小学校4年生	5.5%
小学校5年生	10.6%
小学校6年生	6.6%
中学校1年生	15.3%
中学校2年生	9.1%
中学校3年生	10.4%

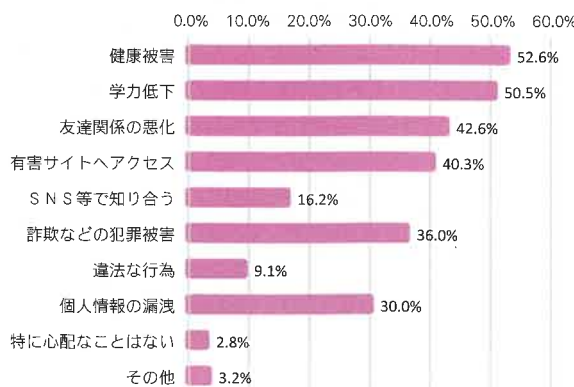
## 健康被害、学力低下、人間関係への不安



（グラフ2）は保護者に対して、「お子様がメディア機器を利用する際、将来どんなことが不安ですか。」という質問の回答結果です（複数回答

可）。視力低下などの健康被害、家庭学習時間の減少による学力低下、SNS上での言い争いなどによる人間関係の悪化など、心配は多岐にわたります。安易な言葉や写真の投稿により、一生消すことが出来ない傷跡を残してしまったという事例も全国にはあります。

（グラフ2）メディア機器の利用に際する将来の心配（保護者）



## 家庭でのルール作りを

家庭で何らかのルールがあるのは、小学生で88・1%、中学生72・8%でした。利用できる時間や時間帯、場所を親子でしっかりと考えていただき、子どもたち自身が自分の時間をきちんとコントロールできるように育てていくことが大切です。